

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価								
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	対前年度比										
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(1) 母子保健	① 安全に安心して妊娠・出産できる環境づくり	1	9	1	0	2 33/36事業	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	増加	93.8%	94.0%	91.7%	91.2%	▲ 0.5 pnt	3	3	<p>C</p> <p>[指標の説明] *妊娠11週までの妊娠届出者の割合、生後4か月までの乳児家庭訪問の割合とも、90%超の高水準を維持しているが、妊娠11週までの妊娠届出者の割合は、減少傾向にある。 *「10代の人工妊娠中絶率」は、減少。</p> <p>[評価] >安心して生み育てることができる環境づくりを進めるため、若年の妊婦や産後うつなど養育支援が必要な家庭に早期に関わる支援や、妊産婦と乳幼児の健康管理など、妊娠・出産・子育て期の切れ目ない支援に取り組んだ。</p> <p>[今後の方向性] >今後も、母子の健康保持・増進を図るとともに、子育ての孤立化を防ぐため、関係機関と連携して、地域での見守り体制を充実するなど、安心して生み育てることのできる環境づくりを進めていく。</p>						
		② 発達の気になる子どもの早期発見、早期支援体制の強化	1	1	0	0		生後4か月までの乳児家庭訪問の割合	増加	93.0%	95.2%	95.5%	95.1%	▲ 0.4 pnt	3								
		③ 養育支援の必要な家庭に対する支援の充実	2	7	0	0		10代の人工妊娠中絶率	減少	13.7%	14.1%	11.7%	11.5%	▲ 0.2 pnt	2								
		④ 基本的な生活習慣の定着や食育の推進	1	9	1	1		/															
		⑤ 適切な思春期保健の推進	1	1	0	0																	
		計	6	27	2	1							91.7%										
	(2) 母子医療	① 周産期医療・小児救急医療体制の維持・確保	2	3	0	0	1 7/7事業						周産期医療、小児救急医療体制	維持	維持	維持		維持	維持	-	-	1	<p>A</p> <p>[指標の説明] *市立医療センター総合周産期母子医療センター等4病院を中核とした産科連携体制を維持。 *市内医療機関の連携による24時間365日対応の小児救急医療体制を維持。</p> <p>[評価] >引き続き、周産期・小児救急医療体制を維持したことにより、市民に大きな安心感を与えることができおり、本市の子育て環境の高評価につながっている。</p> <p>>また、不妊治療への助成や、子ども医療費支給制度を維持し、支援は順調に進捗している。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、医師の確保などにより、支援体制の維持を図っていく。</p>
		② 子どもの感染症予防の推進	0	1	0	0							/										
		③ 不妊治療に関する支援の充実および市民の理解促進	0	1	0	0																	
		計	2	5	0	0		100.0%															
	(3) 子育ての悩みや不安への対応	① 地域における子育て支援の環境づくり	10	37	2	0	1 69/72事業	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (i) 就学前児童	減少	23.9%	25.9%	34.8%	33.9%	▲ 0.9 pnt	2	2		<p>B</p> <p>[指標の説明] *子育ての悩みや不安を感じる人の割合は、就学前児童、中学・高校生の保護者では、減少している。 *子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合は、就学前児童、小学生の保護者では、増加している。</p> <p>[評価] >子ども・家庭相談コーナーでは、関係機関と連携しながら、各家庭の状況に応じた支援・対応に努めた。 >子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合について、就学前児童の保護者が増加している。保健師、幼稚園・保育所、親子ふれあいルームなどでの支援体制の充実が、良い結果につながっていると考えられる。 >平成30年度に別途実施したアンケート調査では、子育てを楽しいと感じる割合が約9割となっており、相談の場や支援の仕組みにより、保護者の悩みや不安が軽減・解消されていると考えられる。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、子育ての悩みや不安を軽減することができるよう、相談の場や支援策のさらなる充実を図るとともに、その周知に取り組む。 >家族や友人など気軽に相談できる人のいない子育て世帯をしっかりと支えられるよう取り組む。</p>					
			(ii) 小学生	減少	29.4%	30.0%		40.0%	43.1%	3.1 pnt	3												
		② 市民が利用しやすい相談体制	0	8	0	0		(iii) 中学・高校生	減少	28.1%	29.9%	41.0%	35.2%	▲ 5.8 pnt	2								
			③ 必要とされる子育てに関する情報が市民に届く仕組みづくり	0	4	1		0	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 (i) 就学前児童	増加	49.0%	47.6%	49.3%	52.6%	3.3 pnt				2				
		④ 少子化への対応や多様化・複雑化した悩みへの支援		2	8	0		0	(ii) 小学生	増加	64.2%	61.1%	60.0%	65.6%	5.6 pnt				2				
				計	12	57		3	0	(iii) 中学・高校生	増加	61.1%	60.9%	59.6%	55.0%				▲ 4.6 pnt	3			
		計	95.8%																				

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価	施策の総合評価					
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績			対前年度比				
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(4) 家庭の教育力の向上	① 子どもの健全育成の基礎となる家庭の教育力の向上	2	8	2	1	2	朝食をほぼ毎日食べている児童の割合（就学前児童）	100%	93.8%	93.0%	93.9%	94.3%	0.4 pnt	2	B			
			2	8	2	1		【H29年度】	朝食をほぼ毎日食べている児童の割合（就学前児童）	100%	93.8%	93.0%	93.9%	94.3%	0.4 pnt		2		
		② 地域等と連携した家庭の教育力の向上	0	4	0	0		【H30年度】	朝食を「毎日食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童の割合（小学6年生）	100%	92.0%	92.4%	92.4%	91.8%	▲ 0.6 pnt		3		
		③ 非行や虐待を生まないための家庭の教育力の向上	0	2	0	0		【H30年度】	（中学3年生）	100%	90.5%	90.8%	91.0%	89.0%	▲ 2.0 pnt		3		
		計	2	14	2	1		16/19事業	家族の人が話をよく聞いてくれる割合（小学6年生）	増加	87.5%	88.8%	—	—	—		—	—	
	計	2	14	2	1	84.2%	（中学3年生）	増加	86.6%	80.3%	—	—	—	—	—				
	(5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	① 事業者等との共同による仕事と生活の調和の推進	1	6	0	0	1	仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	増加	48.0%	49.0%	53.4%	51.8%	▲ 1.6 pnt	3		B		
			1	6	0	0		【H30年度】	仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	増加	48.0%	49.0%	53.4%	51.8%	▲ 1.6 pnt			3	
		② 男性の家事・育児への参画促進	1	4	0	0		12/12事業	就学前児童をもつ父親が、家事・育児をしている割合（i）家事	増加	69.3%	71.9%	71.9%	76.7%	4.8 pnt			2	
		計	2	10	0	0		100%	（ii）育児	増加	90.4%	92.8%	91.2%	92.3%	1.1 pnt			2	
		計	2	10	0	0		100%	主に子育てをしているのが「父母ともに」と回答した人の割合（i）就学前児童	増加	51.2%	51.6%	49.7%	50.0%	0.3 pnt			2	
	(6) 安全・安心なまちづくり	① 子育て家庭が利用しやすい公園・遊び場の整備	0	3	0	0	2	子どもの遊び場や公園に対する満足度	増加	48.7%	52.2%	52.1%	52.2%	0.1 pnt	2			B	
			0	3	0	0		【H30年度】	子どもの遊び場や公園に対する満足度	増加	48.7%	52.2%	52.1%	52.2%	0.1 pnt				2
		② 安全・安心を実感できる街づくりの推進	7	6	1	0		28/31事業	子どもとの外出時に安心と感じる割合	増加	40.5%	39.4%	42.2%	45.0%	2.8 pnt				2
		③ 子育てに優しい都市環境の整備	0	3	0	1		90.3%	/										
④ 子育てしやすい住環境の提供		6	0	1	0														
⑤ 交通安全の推進		1	2	0	0														
計	14	14	2	1															

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価	施策の総合評価			
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績			対前年度比		
2 子どもの育ちを支える幼児期の学校教育や保育の提供	(7) 幼児期の学校教育や保育の提供	① 保育の量の確保と教育・保育の質の向上 ② 幼稚園、保育所等における多様なニーズに対応した保育サービスの充実 ③ 幼稚園、保育所等における障害児保育の充実 ④ 保育所、幼稚園等と小学校の連携の充実 ⑤ 幼稚園、保育所等における子育て支援の充実 ⑥ 教育・保育に関する情報提供 計	16	16	5	1	2	保育所待機児童数(4月)	0人	0人	0人	0人	0人	±0	1	2	[指標の説明] *保育所待機児童(4月時点)は、0人を維持。 *保育所待機児童(10月時点)は、0人を達成。 *幼稚園・保育所の満足度は、前年度比増加。 [評価] > 保育所の整備、小規模保育事業の開設、認定こども園への移行支援、一時預かり事業(幼稚園型)などを行い、受入児童数の拡大を図ったことにより、年度当初の待機児童0人を続けることに加え、10月時点の待機児童0人も今回初めて達成することができた。 > 「女性の社会進出が進んでいること」「積極的な保育の受皿の拡充が新たな需要を掘り起こしていること」等により、保育ニーズが高まっている。保育士・保育所支援センターの運営や「予備保育士雇用費補助」の実施(拡充)など、保育士確保に努めた。保育サービスコンシェルジュが各家庭のニーズに合わせ、きめ細やかな対応を行い、入所支援を行った。 > H30年度より、幼稚園・保育所等では、新たな「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等に掲げられた「育みたい資質・能力(3つの柱)」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」等を踏まえた教育・保育がスタートした。これにより、幼稚園教諭や保育士にも意識の変化が見られている。各現場において、子どもが本来持つ、自ら育ち生きる力を引き出す、子ども一人ひとりに目を向けた質の高い教育・保育が進んでいる。 > 延長保育や一時保育など親の働き方等に合わせた多様な保育を提供するとともに、特別支援教育助成事業の充実により、特別な教育的支援を要する幼児の就園先が確保できている。 [今後の方向性] > 子どもの育ちを支え見守るベストな保育環境を整備するとともに、教育・保育の内容の満足度を維持・向上していくためには、職員の配置や処遇の改善、職員の事務負担の軽減に、併せて取り組んでいくことが必要である。 > 引き続き、継続的な待機児童の解消、満足度向上のため、ソフト・ハード両面から、幼児期の教育・保育の質のさらなる向上と量の確保に取り組んでいく。
			2	5	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(施設・環境)(i) 幼稚園	向上	86.9%	79.7%	88.5%	89.7%	1.2 pnt	2		
			2	7	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(施設・環境)(ii) 保育所	向上	86.1%	86.1%	87.0%	88.1%	1.1 pnt	2		
			0	1	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(教育・保育の内容)(i) 幼稚園	向上	89.6%	85.4%	91.4%	93.3%	1.9 pnt	2		
			0	1	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(教育・保育の内容)(ii) 保育所	向上	89.3%	87.1%	91.1%	91.6%	0.5 pnt	2		
			4	9	0	1		幼稚園における学校関係者評価実施施設数	90施設	54施設	82施設	90施設	90施設	±0	2		
			1	2	0	0		保育所における児童福祉施設等第三者評価の実施施設数	全施設	154施設	158施設	164施設	168施設	4施設	2		
			計	25	40	5		2	90.3%					(2.4%)			
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(8) 放課後児童クラブ	① 放課後児童クラブの運営基盤の強化 ② 放課後児童クラブの魅力向上 計	0	2	0	0	1	放課後児童クラブの待機児童数(4月)	0人	0人	0人	36人	0人	▲36人	1	2	[指標の説明] *クラブの待機児童数は、前年度の36人(4月時点)を解消し、再び0人を達成した。 *クラブの満足度は、施設・環境、開所時間等、いずれも前年度に比べ減少したが、過去の数値をみると、一定水準で推移していると考えられる。 [評価] > 19時まで開所しているクラブの割合は実施率40.3%と、前年度同水準を維持している。 > 成果指標であるアンケートの結果では、保護者の満足度が約6割から7割となっているが、小学生を対象に行ったアンケートでは、86.4%が「クラブは楽しい」と回答しており、子どもが健やかに成長できる環境が維持されていると考えている。 [今後の方向性] > 放課後児童クラブの施設整備や利用内容の充実など、引き続き必要な環境整備に取り組む。 > 放課後児童支援員に対する研修に加え、巡回カウンセラーやアドバイザーの巡回・派遣等を行い、運営の強化や質の向上に取り組む。
			0	5	0	0		放課後児童クラブに対する満足度(i) 施設・環境	向上	65.8%	64.3%	64.8%	64.1%	▲0.7 pnt	3		
			0	7	0	0		放課後児童クラブに対する満足度(ii) 開所日・開所時間	向上	73.4%	74.9%	78.8%	74.0%	▲4.8 pnt	3		
			計	0	7	0		0	100%								

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価			
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績				対前年度比		
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(9) 青少年の健全育成	① 青少年への社会体験活動等の機会や場の提供	9	21	2	2	2	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	増加	5,415人	5,734人	5,387人	7,116人	1,729人 (32.1%)	1	1	<p>[指標の説明] *青少年のボランティア体験活動は大幅に増加。 *非行者率は、毎年着実に低下。</p> <p>[評価] > 青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数は大幅に増加し7,000人を上回った。青少年の成長に有効な体験活動が盛んに行われており、活動状況は順調である。</p> <p>> 非行者率は、毎年着実に減少しており、非行防止教室・薬物乱用防止教室の実施や、地域・学校・警察等と連携した支援体制が成果をあげていると考えている。</p> <p>> いじめ・不登校等の問題については、確実な実態把握に努め、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置や関係機関との連携により、きめ細やかな対応を行っている。 なお、いじめの解消率については、H30年度の実績が公表されていない段階であるが、過去の実績をみると100%に近い数値で推移しており、取り組みは順調であると考えられる。</p> <p>[今後の方向性] > 引き続き、関係機関等と連携し、子どもの成長を促す様々な体験の場を提供するとともに、青少年の健全育成が十分図られるよう、必要な環境整備・支援に取り組む。</p>	
		② 有害環境から青少年を守り、非行を未然に防止するための取り組みの推進	2	6	0	1		非行者率 (少年人口1,000人あたりの人数) 【H31年度】	7.0人	7.9人	6.4人	5.4人	3.8人	▲1.6人 (▲29.6%)	1			
		③ 危険ドラッグをはじめとする薬物の乱用防止対策の推進	0	3	0	0		いじめの解消率 (1) 小学生 【H30年度】	100%	87.6%	99.1%	98.0%	9月に全国一斉公表のため、数値なし	-	-			-
		④ 不登校やいじめの未然防止、解消に向けた取り組みの推進	0	4	0	0		(ii) 中学生 【H30年度】	100%	97.7%	97.1%	96.3%	9月に全国一斉公表のため、数値なし	-	-			-
		⑤ テートDV予防啓発の推進	0	1	0	0												
		計	11	35	2	3		46/51事業 90.2%										
	(10) 子ども・若者の自立や立ち直りの支援	① 若者の自立を支援する環境づくり	4	3	0	0	1	「YELL」来所相談者の就業等実績(累計) 【H31年度】	500人	291人	337人	390人	437人	47人 (12.1%)	1	1		
		② 非行からの立ち直りを支える取り組みの推進	2	2	0	0		北九州市協力雇用主見舞金登録者数	増加	17人	72人	72人	72人	±0	2			
		計	6	5	0	0		11/11事業 100%										
															<p>[指標の説明] *若者の自立をサポートする「YELL」の来所者の就業等の実績が向上。 *非行歴のある青少年の雇用主の受入は前年度同数を確保。</p> <p>[評価] > 子ども・若者応援センター「YELL」において、悩みや課題を抱える若者に対し、自立に向けた支援等を継続的に行った結果、47名の若者が就労・就学に至るなど、多くの若者の自立支援の場としての役割を果たしている。</p> <p>> 非行歴のある青少年を受け入れる協力雇用主は、208社から234社に増加し、受入体制の整備が進んでいる。</p> <p>> 不登校状態の子どもに寄り添った訪問支援等については、今年度から本格実施となり、一人ひとりに寄り添った伴走型支援の充実が図られている。</p> <p>[今後の方向性] > 子ども・若者が社会生活を円滑に営むことができるよう、引き続き、自立を支援する環境づくりを進めるとともに、非行からの立ち直りを支えるため、雇用だけでなく生活面の支援にも取り組んでいく。</p>			

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価	施策の総合評価		
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績			対前年度比	
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(11) 社会的養護が必要な子どもへの支援	① 児童養護施設における生活環境整備等の促進	0	7	0	0	2	地域小規模児童養護施設・小規模グループケアの実施件数	23か所	15か所	16か所	16か所	24か所	8 か所	1	<p>[指標の説明] *家庭的な養護を推進する施設等（地域小規模養護施設・小規模グループケア）は8か所増加。 *里親やファミリーホームなどの委託率は微増。最終目標（令和元年度20%）を概ね達成できている。</p> <p>[評価] >地域小規模児童養護施設で、社会的養護が必要な子どもが、家庭的な環境と安定した人間関係のもと、きめ細やかなケアを受けられる体制が拡大した。</p> <p>>里親制度やファミリーホームの普及啓発を行った結果、受入体制にも進展がみられる。子ども一人ひとりに最も適した養育環境を用意した結果として、里親やファミリーホーム委託率の上昇傾向につながっていると考えている。</p> <p>[今後の方向性] >今後も、子ども一人ひとりに向き合い、その子どもにとって最適な生活環境を提供していくことができるよう、社会的養護が必要な子どもが健やかに生まれ、自立できる社会環境の整備に努めていく。</p>
		② 里親や小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）の普及促進	0	2	0	1			9/10事業	20.0%	17.5%	20.8%	19.0%	19.1%		
計		0	9	0	1	90.0%	要保護児童数に対する里親・ファミリーホーム委託率	[H31年度]								
	(12) ひとり親家庭等への支援	① ひとり親家庭の生活の安定と向上	2	9	2	0	2	ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用数（母子・父子福祉センター延べ利用者数）	増加	10,015人	11,323人	10,520人	10,840人	320 人	2	<p>[指標の説明] *母子・父子福祉センターの利用者数は、増加。 *ひとり親家庭の支援・相談窓口として、母子・父子福祉センター、子ども・家庭相談コーナーを知らない人は減少。</p> <p>[評価] >ひとり親家庭の支援・相談窓口である母子・父子福祉センターの延べ利用者数は、1万人を超える水準で推移しており、今年度も数多くの家庭に対し、支援を行うことができた。</p> <p>>子ども・家庭相談コーナーの認知度は高く、各種支援制度のつなぎ役として重要な役割を担うことができていると考えている。</p> <p>>就労面、生活面、経済面など、ひとり親家庭等に対する様々な支援策を提供することにより、生活の安定と向上につなげることができた。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、ひとり親家庭等が経済的にも社会的にも自立し、安定した生活を営むことができるよう、生活支援や就業支援など多様な支援策の提供を行うとともに、その利用を促すため、効果的な情報発信を行っていく。</p>
								ひとり親家庭の支援・相談窓口を知らない人の割合（ⅰ）母子・父子福祉センター	減少	39.8%	52.1%	52.6%	51.1%	▲ 1.5 pnt		
								（ⅱ）子ども・家庭相談コーナー	減少	14.5%	9.6%	8.6%	7.7%	▲ 0.9 pnt		
		② 子どもの貧困対策	3	13	1	0	27/30事業	ひとり親家庭の就業率（5年に一度調査を実施）（ⅰ）母子家庭 [H23 83.6%]	増加	—	87.9%	—	—	—	2	
		計	5	22	3	0	90.0%	（ⅱ）父子家庭 [H23 91.8%]	増加	—	94.2%	—	—	—		

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価		
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	対前年度比				
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(13) 児童虐待への対応	① 児童虐待の発生予防・早期発見・早期対応および適切な支援	0	11	0	0	1	児童虐待対応件数	減少	606件	918件	1,139件	1,487件	348件 (30.6%)	-	-	<p>[指標の説明] *児童虐待対応件数は増加。</p> <p>[評価] >児童虐待の未然防止・早期発見等を図るため、関係職員等に対する研修会を実施するとともに拠点病院に配置した児童虐待専門コーディネーターを活用する「児童虐待防止医療ネットワーク事業」のさらなる推進を図るなど、対応強化を進めた。</p> <p>>取組みの強化により、潜在化していた事案が掘り起こされ、「早期発見・早期対応」という本市の目指す取り組みが進捗しているものと考えているが、児童虐待対応件数が大幅に増加しているという現状を踏まえ、今回は、成果の評価は行わず、総合評価(ABCD)も見送った。</p> <p>[今後の方向性] >児童虐待対応件数の推移を注視しつつも、引き続き、関係機関と連携し、児童虐待の未然防止・早期発見・早期対応に努める。</p>
		計	0	11	0	0			11/11事業 100%								
	(14) 障害のある子どもへの支援	① 障害のある子どもの早期発見と相談・支援体制	4	13	0	0	1	専門機関・施設等に相談する割合（※）	増加	47.7%	72.1%	68.9%	70.0%	1.1 pnt	2	<p>[指標の説明] 子どもの成長や発達、障害に関する不安等について*専門機関・施設に相談する人の割合は、増加。 *友人や家族を含め、相談できる相手が全くいない人の割合は微増。</p> <p>[評価] >障害のある子どもの早期発見と相談・支援、全保育所での障害児の受入体制の整備、進路アドバイザーや就労支援コーディネーターによる高等部卒業生の就労支援など、障害のある子どもの成長過程に応じた支援を行い、障害のある子どもが自立し、社会参加できる社会環境づくりを着実に推進することができた。</p> <p>>放課後等デイサービスの受入定員は増加している。<u>放課後等デイサービス利用者の保護者を対象に行ったアンケートでは、86.8%が「お子さんが放課後等デイサービスで過ごすなかで、お子さんの変化(苦手だったことができるようになったなど)を感じることもある」と答えており、支援の充実が図られていると考えられる。</u></p> <p>[今後の方向性] >引き続き、障害のある子どもとその家庭に対し、成長過程に応じた切れ目ない相談・支援を行い、必要な時に必要な支援を受けることのできる環境整備に取り組む。</p>	
		② 保育所等での障害のある子どもの受け入れや保育内容の充実と、小学校等入学時の情報伝達の強化	1	4	0	0		相談する相手がいない人の割合	維持	4.5%	4.2%	3.5%	4.1%	0.6 pnt	3		
		③ 障害のある子どもの放課後対策の充実	1	3	0	0											
		④ ライフステージを通じた相談支援体制の強化とレスパイトなど保護者の負担軽減の充実	3	11	1	0											
		⑤ 重度の障害のある子どもへの支援の強化	4	8	0	0											
		⑥ 発達障害のある子どもへの支援の充実	4	4	1	0											
		計	17	43	2	0		60/62事業 96.8%	※「専門機関・施設等に相談する割合」については、H28年度のアンケートより、質問の仕方を変更し「相談できる専門機関等がある」と回答した率ではなく、「不安等を感じたときに専門機関等に相談したいと思う」と回答した率を集計した。								